

参考 公開授業のアンケートと参観者の声

本研究委員会では、小学校 1 校、中学校 1 校、高等学校 1 校で授業実践を県内の先生方に公開し、授業研究会を行いました。延べ 25 名の先生方に参加していただきました。

公開授業研究会後の参観者アンケートの結果と、記述していただいた御意見や御感想を紹介します。

1 アンケート結果

- 「意欲的に参加することができたと思いますか」の質問に対して、「思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は 100%で、全ての参観者が意欲的に参加できたと感じていることが分かりました（図 1）。

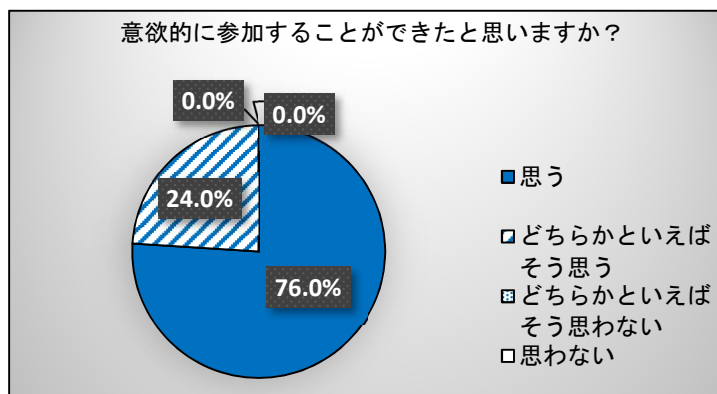


図 1 参観者アンケートより

- 「『強み』に着目した交流活動の意図は理解できましたか」の質問に対して、「できた」「どちらかといえばできた」と回答した人の割合は 100%で、全ての参観者が本活動プログラムの意図を理解できていたことが分かりました（図 2）。

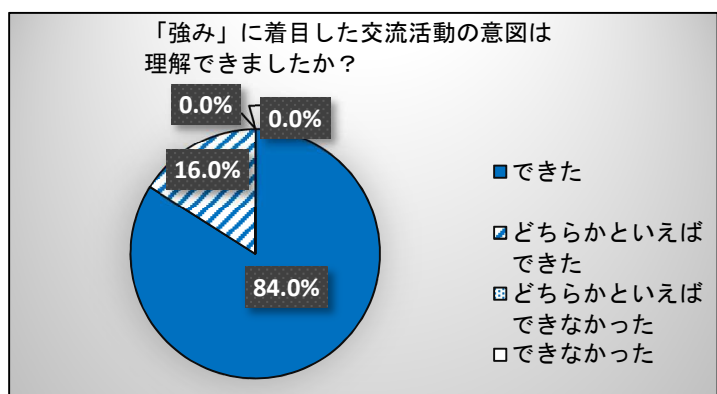


図 2 参観者アンケートより

- 「『強み』に関する活動プログラムは、児童生徒の自己肯定感を高める上で有効であったと思いますか」の質問に対して、「思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は 100%で、全ての参観者が本活動プログラムの有効性を感じていることが分かりました（図 3）。

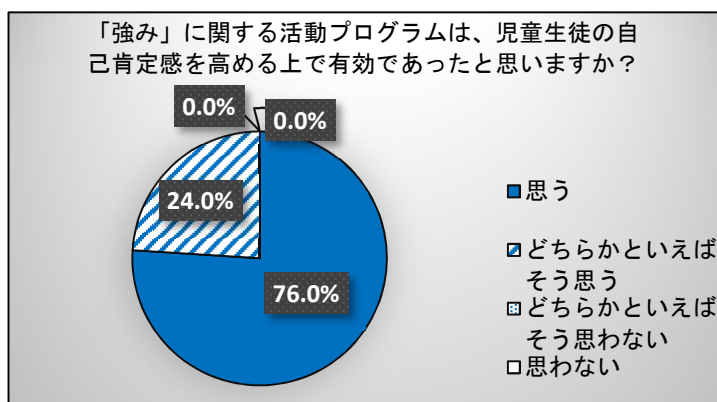


図 3 参観者アンケートより

○『強み』に関する活動プログラムを学級集団づくりに生かしてみようと思いますか」の質問に対して、「思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は100%で、全ての参加者が本活動プログラムを学級集団づくりに生かしてみたいと感じていることが分かりました（図4）。

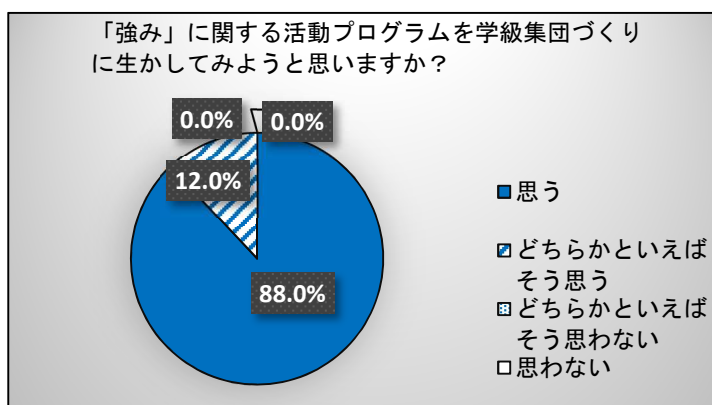


図4 参観者アンケートより

2 参観者の意見・感想より

<評価できること>

- ・自分の「強み」を知ることは自己肯定感の高まりにつながると思う。
- ・「強み」をグループで見付け合い学級で共有することによって、よりよい学級になっていくと感じた。学級経営に是非役立てたい。
- ・十分に練り上げられた展開案やワークシート、スライド資料がそろっているため、すぐに学校現場で活用できると思う。
- ・子供の笑顔が増える取組だと思う。
- ・まずは自分自身のことを知るために、友達から「強み」を見付けてもらったり励ましてもらったりする機会をもたせたい。
- ・グループ交流が多く、話合いが苦手な生徒でも参加できるように工夫されていた。
- ・授業研究会で協議をしたことが大変勉強になった。
- ・3時間の授業を通して、児童生徒の気付きや交友関係が深まっていくと思う。
- ・自他を認める心を培うことによって集団の支持的風土を醸成していくことができると思った。
- ・研究の内容は予防的教育相談であり、目的も発想も手立ても素晴らしいと感じた。校内で共有したい。
- ・実際にこの活動プログラムを活用することによって「ねらい」に迫ることができることが確認できた。
- ・工夫をすれば小学校の低学年でも使えると思う。
- ・この活動プログラムで示されている「よさ」と「強み」について、自分自身が学ばなければいけないと思った。
- ・日頃の自分自身の実践を振り返るきっかけになった。
- ・本研究の提案は、日頃から自分が心掛けていることであった。
- ・ピア・メディエーションの授業と関連付けるとよいと思った。

<課題となること>

- ・児童生徒の実態が違っていると、言葉掛けや時間配分等に工夫が必要だと感じた。
- ・高等学校では、3時間全てを実施するための時間確保が難しい。一部を取り入れることはできるかもしれない。
- ・自分で考えたり、意見を言ったり、書いたりすることが苦手な子供が多いと感じている。効果を高めるためには、しっかりと自分と向き合い、人の話を聞いて、自分の考えを伝える練習をする必要があると感じた。